

横浜市インフルエンザ流行情報 15号

横浜市健康福祉局健康安全課 / 横浜市衛生研究所

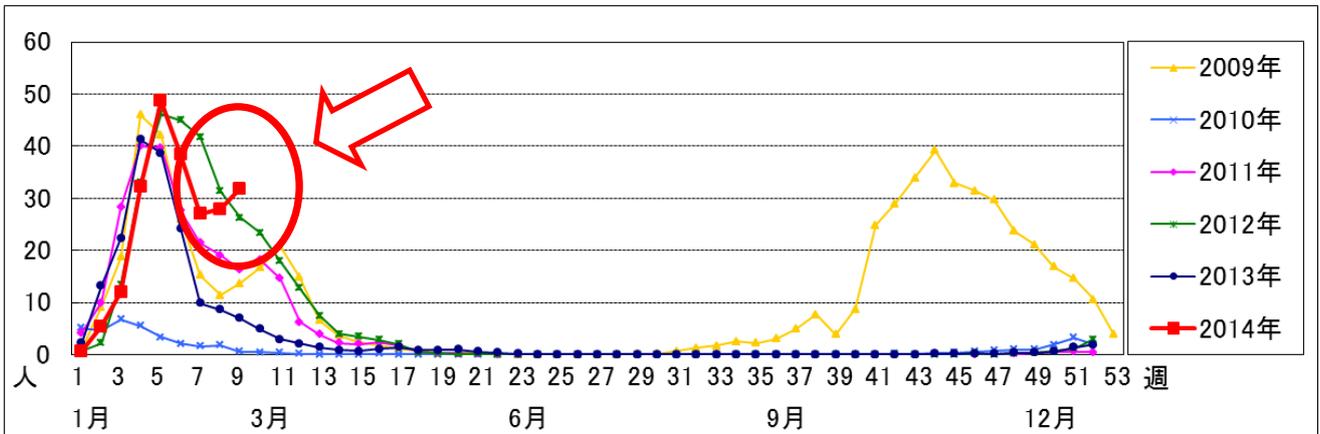
《トピックス》

- 報告数が **2週連続で再上昇し、再び警報発令基準値（定点※1あたり30.00以上）を上回りました。**施設での集団発生^{の報告も続いており、インフルエンザの流行はまだしばらく続きそうです。}
- 感染予防や早期受診などの対策※2が重要です。

※1 定点・定点とは、定期的にインフルエンザ患者発生状況を報告していただいている医療機関(市内152か所)のことで、そこから報告された患者数の平均値が定点あたりの患者報告数です。

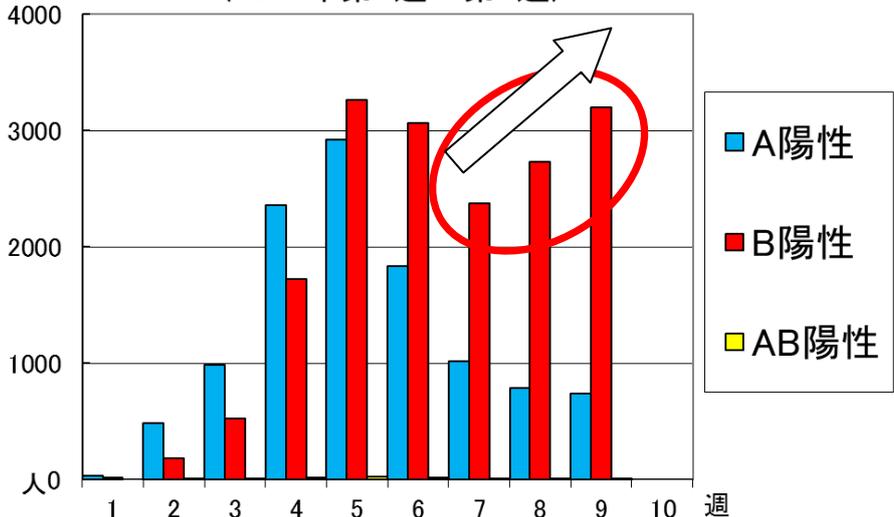
※2 [インフルエンザ予防チラシ\(横浜市\)](#)

1 市内流行状況:市全体の定点あたりの患者報告数は、第5週(1月27日~2月2日)の48.74以降減少を続けていましたが、第8週に増加に転じたのち、第9週(2月24日~3月2日)は**31.82**とさらに上昇し、再び警報発令基準値を上回りました。インフルエンザの流行はまだまだ継続しそうです。

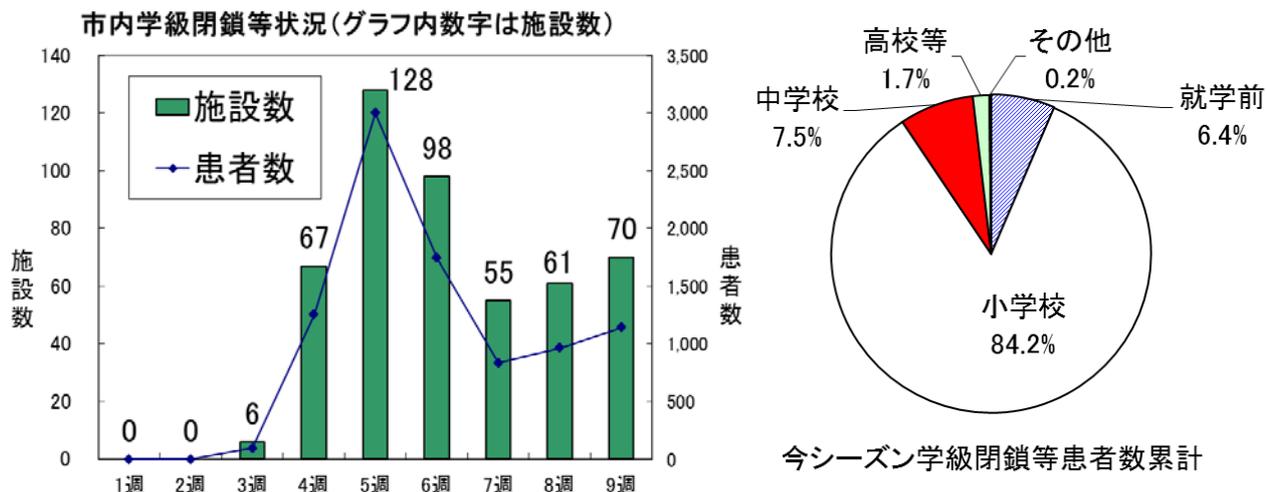


2 迅速キット結果:第5週以降 A 型、B 型ともに減少していましたが、第8週以降 **B 型が増加に転じています。** A 型は引き続き減少しているものの、第9週では下げ止まりつつあります。第9週は A 型 18.7%、B 型 81.1%、A 型 B 型ともに陽性 0.3%と、**B 型が8割以上**を占めています。

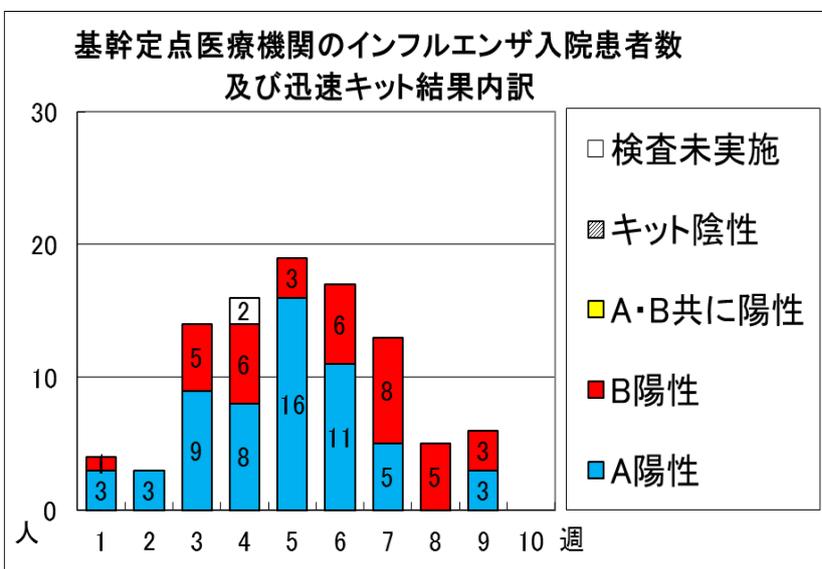
迅速診断用検査キットによる型別の報告数 (2014年第1週~第9週)



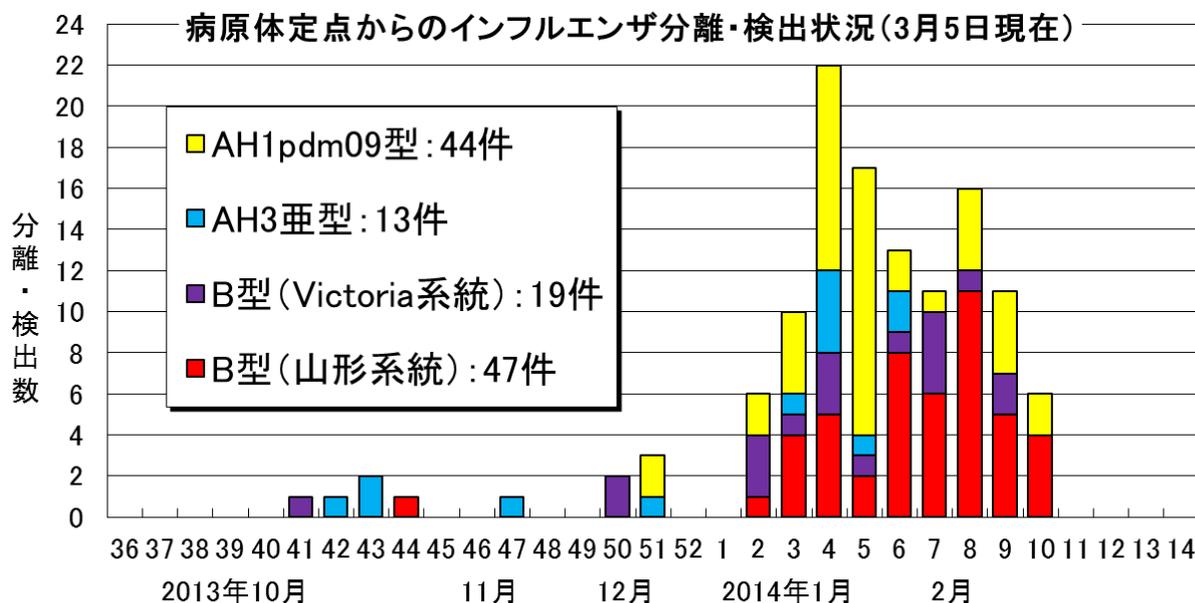
3 市内学級閉鎖等状況:閉鎖施設数は第5週をピークに減少が続いていましたが、第8週以降増加に転じています。第9週の施設種別では、小学校59件、幼稚園6件、中学校2件、高校2件、その他1件でした。今シーズンの学級閉鎖等に伴う累計患者数では、小学校の患者数が全体の8割以上を占めています。



4 入院サーベイランス:基幹定点医療機関^{※3}における、インフルエンザ入院患者数は第5週以降減少していましたが、**第9週は増加**しました。迅速キットの内訳は、第9週はA型とB型が半々でした。
 ※3 基幹定点:患者を300人以上収容する病院(小児科医療と内科医療を提供しているもの)の中から、地域ごとに指定された医療機関のことで、市内には4つの基幹定点があります。



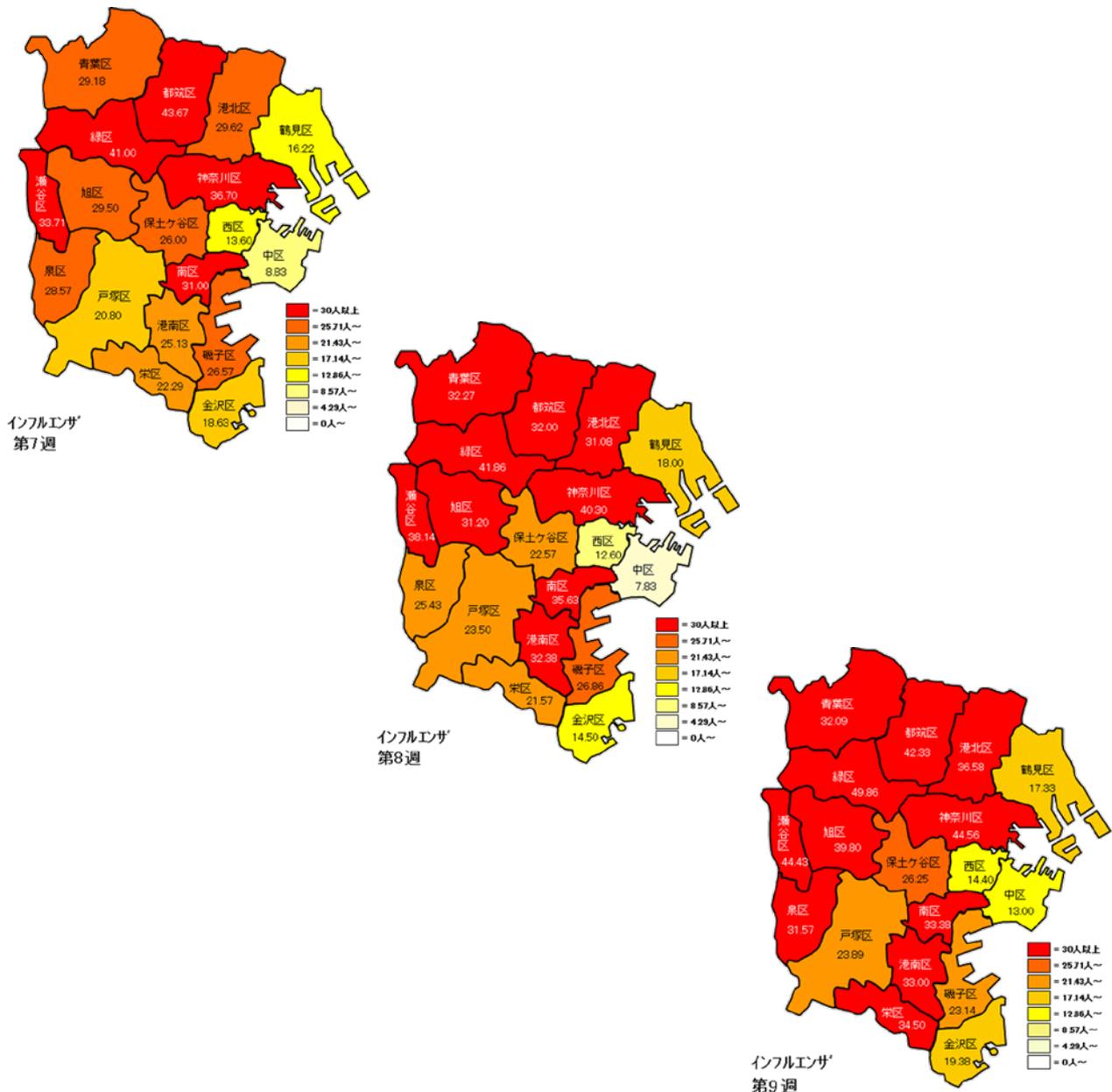
5 市内病原体検出状況:第6週以降B型、特に**山形系統**が多く検出されています。なお、Victoria系統は今シーズンのワクチンに含まれていません。



6 分離株の耐性検査: 衛生研究所で AH1pdm09 型の 61 株を検査したところ、耐性ミックス株 (275H/Y) (注: 薬剤治療中または治療後の患者の検体からは、薬剤により耐性が誘導された株と通常の株がミックスされたもの(耐性ミックス株)が検出されることがあります。通常はそのウイルスが地域で流行することはありません。最近話題になっている耐性株とは異なります。) が 3 株見つっていますが、耐性株(275Y)は見つかっていません。ただ、耐性ミックス株のうち 2 株を国立感染症研究所で検査したところ、オセルタミビルおよびペラミビルへの感受性が低下していました。ザナミビルおよびラニナミビルに対しては感受性を保持していました。

ウイルス株名	IC ₅₀			
	オセルタミビル	ペラミビル	ザナミビル	ラニナミビル
A/YOKOHAMA/18/2014	8.34	8.27	0.26	0.30
A/YOKOHAMA/24/2014	40.91	24.12	0.29	0.68
耐性参照株	160.08	31.13	0.13	0.28
感受性参照株	0.27	2.16	0.02	0.21

7 区別流行マップ



【お問い合わせ先】 横浜市健康福祉局健康安全課 TEL 045(671)2463
 横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課 TEL 045(754)9815